

—この子らを世の光にできる地域づくりを。
障害のある仲間のねがいに学び、その原点を貫いた
「いのち太らせる」実践のすべて。

共同作業所のところと実践

立岡 暁 (きょうされん前理事長)

本体1,500円+税



主な内容

序章 マイナスからの出発／1 「あした」が見えた、和子さん／2 生まれかわったしげやん／3 よしえさんの大粒の涙／4 和みや井当と美奈子さん／5 幸恵さんの老後／6 ヒトミさんと障害者自立支援法／7 仲間が主人公を／つらぬく／8 21世紀初頭、解決しなければならぬ課題／9 薬師寺三重塔に学ぶ／10 ノーマライゼーションを地域に／補章 最重度といわれる信明さんから託されたこと
対談Ⅱ加藤直樹(立命館大学名誉教授・立岡暁「この子らを世の光にできる地域づくりを」)
寄稿Ⅱ藤井克徳(きょうされん常務理事)「立岡実践に学ぶ」

ご購入は

全障研出版部

(TEL) 03-5285-2601

(FAX) 03-5285-2603

(E-mail)

book@nginet.or.jp

書店での申し込みも
できます。

▼具体的にわかりやすく、仲間の顔が見えてくる
本誌連載時(二〇〇七年度)、
「一番先に読ませてもらっていません」「たいへん励まされます」など、共感の声がたくさん寄せられました。文章は、具体的にわかりやすく、仲間の顔が見えてくるように、そのことばの背景には、とても深い立岡さんの思想と実践がありました。

▼単行本では四つの充実！
単行本化にあたって、次の四点がさらに充実しました。

①なによりも仲間の姿から実践を語るように再構成し、豆塚猛さんの写真も多数掲載しました。

②糸賀一雄、田中昌人さんらにつながる「福祉の思想」の実践者である立岡さん。その盟友・加藤直樹さん(立命館大学名誉教授)と

の「対談」で、実践の位置づけとその意味を研究的にも浮き彫りにしました。

③きょうされん結成三〇年の視点から藤井克徳きょうされん常務理事が、もう一つの「きょうされん物語」として寄稿してくれました。

④「この子らを世の光にできる地域づくりを」の原点となった、最重度といわれた信明さんとの作業所での日々を「補章」として書き下ろしています。

これらが、何層にもわたって、立岡実践と思想を感動的に表現することに成功しているのです。

▼明日の勇気がわいてくる
天下の悪法・障害者自立支援法をめぐって激しい障害者運動が続いています。毎日が厳しく苦しい時代となっています。

しかし、「共同作業所はいのち

太らせるところ」と障害のある仲間たちとともに、なによりもその願いに学びながら、大きな夢を語り、地域に打って出て、まさにマイナスをプラスに変えてきた立岡実践。そこからは、明日の活動に勇気をもらい、希望をもつことができるのではないのでしょうか。

でも、そんな「スーパーマン」でも疲れることも、悩むこともあります。そんなときは薬師寺の塔を何時間も見上げるといいます。

「明日が見えてくるような実践を集団の中でつくりたい。一人ぼっちは絶対だめなんです」「生まれて来てよかったと言える働く場、暮らす場、憩う場など自立できる地域社会をつくりたい」。

私はこの本を担当者として編集できた喜びをかみしめています。

(蘭部英夫 全障研全国事務局長)